

※ 本リリースは国土交通記者会・交通運輸記者会に配布しております。

2024年3月22日

## MICE アンバサダーに新たに3名の就任が決定！

日本政府観光局（JNTO）は、国際会議の誘致活動や国際会議開催の意義の啓発・広報活動を担う「MICE アンバサダー」として、3月1日付で新たに3名を任命しました。

国際会議の開催は、開催地への外国人参加者の来訪に加え、地元産業と学会を連携させることによる地域の活性化や経済発展につながります。MICE アンバサダーは「日本の顔」として、JNTO と連携した新たな国際会議の誘致や、JNTO が実施するさまざまな広報・プロモーション活動にご協力いただきます。

### ◆2023年度に新たに就任した MICE アンバサダー



光石 衛（みついし まもる）

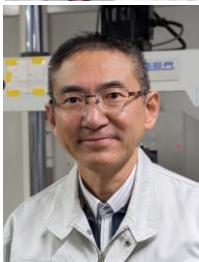
日本学術会議 会長／独立行政法人大学改革支援・学位授与機構理事

- 生産工学、ロボット工学を専門とし、最先端のロボット技術を医療に応用したさまざまな手術支援ロボットを開発。
- 組織委員会の Chair として国際生産工学アカデミー第68回総会を開催成功に導く。



伊東 宏晃（いとう ひろあき） 浜松医科大学 産婦人科 主任教授

- 低出生体重児などにおいて、胎児期・乳児期のストレスや栄養環境などが成長後の健康や生活習慣病の発症リスクに影響を及ぼすという学説である DOHaD 研究の第一人者。
- 日本 DOHaD 学会理事長として国際 DOHaD 学会 2027 の浜松への誘致に成功し日本初開催に導く。



植松 美彦（うえまつ よしひこ） 岐阜大学 工学部 教授（工学部長）

- 機械工学、材料強度学などを研究し、多くの学会にて要職を務める。
- 2023年11月に広島で開催された金属疲労の国際会議(FATIGUE) 2022+1 において誘致委員会の副会長として同会議の誘致に努め、日本初開催へと導いた。

※各アンバサダーの略歴については別紙参照

### ◆MICE アンバサダープログラムの概要

JNTO は、国内における国際会議開催の意義の理解度向上および海外における国際会議開催国としての日本のプレゼンス向上のため、学識や名声があり、専門分野において国内外に影響力のあるグローバルリーダーの方々を MICE アンバサダーに任命しています。本プログラムは2013年にスタートし、2024年3月現在、65名の MICE アンバサダーが活動しています。

【お問い合わせ先】

MICE プロモーション部 誘致推進グループ 野村・延川・有村・軍司

TEL : 03-5369-6015 E-MAIL : [convention@jnto.go.jp](mailto:convention@jnto.go.jp)

**光石 衛 (みついし まもる)**

日本学術会議会長 / 独立行政法人大学改革支援・学位授与機構理事

1986年東京大学大学院工学系研究科機械工学専攻博士課程を修了、工学博士。生産工学、ロボット工学を専門とし、知能化生産システムや、生産工学、ロボット工学を医療に応用した各種の手術支援ロボットなどの研究開発に注力している。東京大学大学院工学系研究科教授、東京大学工学部長、東京大学大学院工学系研究科長、2017年に東京大学大学執行役・副学長を経て、2022年独立行政法人大学改革支援・学位授与機構理事、また、東京大学名誉教授に就任。2023年10月より、第26期日本学術会議会長職も担う。日本学術会議では分科会の委員長として「未来の学術振興構想（2023年版）」を取りまとめ、2023年9月に提言を公表している。2018年に開催された、国際生産工学アカデミー（The International Academy for Production Engineering : CIRP）の「第68回総会（The 68th General Assembly of CIRP）」に際しては、組織委員会のChairとして同国際会議の開催に尽力し、開会式には皇室のご臨席を賜るなど、国内外に対し日本の魅力発信と国際会議の開催意義を広く啓発した。なお、2019年から2年間、CIRPのPresidentも務めた。

**伊東 宏晃 (いとう ひろあき)**

浜松医科大学 産婦人科 主任教授

2018年より浜松医科大学産婦人科の主任教授となり、日本DOHaD学会（理事長）、日本産科婦人科学会（代議員）、日本女性栄養・代謝学会（常任理事）など多くの学会に所属している。日本国内の学会のみならず、International Society for Development Origins of Health & Diseaseなどの国際本部にも所属。受賞歴においても、日本産婦人科学会優秀演題賞などの国内での受賞に加え、Best Reviewer Award, The Journal of Obstetrics and Gynecology Researchを受賞するなど、海外でも高い評価を得ている。DOHaDは低出生体重児などにおいて、胎児期や乳児期のストレスや栄養環境などが成長後の健康や生活習慣病の発症リスクに影響を及ぼすという学説であり、低出生体重児の出生率がOECD加盟国で最も高率である日本において、伊東先生の研究・活動が日本社会に大きく寄与している。2023年に日本DOHaD学会理事長として、国際本部とのネットワークをいかし、「国際DOHaD学会2027」の浜松への誘致に成功し、同学会の日本初開催に導いた。地方都市での国際会議開催に熱意をもって取り組んでいる。

**植松 美彦 (うえまつ よしひこ)**

岐阜大学 工学部 教授（工学部長）

2011年より岐阜大学工学部教授となり、日本機械学会（材料力学部門委員会副部門長）、日本材料学会（疲労部門委員会委員長）、自動車技術会（構造形成技術部門委員会委員長）など多くの学会に所属している。受賞歴においても、日本材料学会学術貢献賞、自動車技術会技術部門貢献賞などを受賞され、同分野の研究に多大な功績を残している。2023年11月に広島で開催された「金属疲労の国際会議（FATIGUE）2022+1」では誘致委員会の副会長として同会議の誘致に努め、競合国のドイツを破り日本への誘致に成功し、日本初開催へと導いた。同会議は研究者のみならず産業界からも日本企業が数多く参加し、国内外の機械工学分野の研究の発展に大きく貢献したとともに、日本のものづくり技術を世界中の参加者に強くアピールする機会となった。国際会議が研究・発表の場という考えに留まらず、国際会議開催は地域へのレガシー創出、経済効果及び、日本のブランド構築にもつながるという信念をもって活動されている。